

2学期終了！新年こそいい年に！

間もなく2学期が終了となります。コロナ禍の中、1学期に実施できなかった学校行事等が今学期に集中するなど、例年にならない教育課程の変更により、慌ただしさを感じる学期になったものと推察いたします。そんな中でも、研修会などで各学校を訪問させていただくと、子ども達が明るく元気に活動している姿や先生方が授業づくりに前向きに取り組んでいる姿に、元気やパワーを感じることができました。何の制限もないもと通りの教育活動に戻るには、今しばらくかかることが予想されますが、目の前にいる子ども達のためにできる教育活動を確実にを行い、いち早いコロナの終息を待ちたいものです。

今年度は冬季休業中の一部が授業日となり、2学期の終業式が12月25日（金）、3学期の始業式が1月5日（火）になります。通常より短い冬休みとなりますが、新年を迎える大きな社会的行事もあります。皆様にとって、新年が希望に満ちた輝かしい年になるようご祈念申し上げます。



研修会から

2学期は、各学校において授業研究会を始めとした研修が数多く行われました。

その中から授業づくりのひとコマを紹介します。

授業研究会（アドバイザー訪問）から

学校教育アドバイザーの村瀬先生を迎えての中学校3年生の数学の授業で、円周角の性質について考える内容でした。4人グループでの学習形態をとり、タブレットを使用しての授業で、50分間、全員が課題解決に向けて楽しく積極的に取り組んでいました。

特に、タブレットの使用では、円周角の形を場面によって変えるなど、思考に結びつくよう効果的に活用されていました。



教師の説明を聞く際には、1年生ながら全員が体の向きを変え、うなずきながら真剣な表情で聞き入っていました。学習訓練も身につけており、発表の仕方や聞く姿勢もしっかりした態度でした。

また、ペア学習が定着してきており、隣の友だちと意見交換することに慣れてきている姿が見られました。学びに向けた子ども達の成長の様子が見て取れる授業を進めています。



『教育』とは？

『飼育』と『教育』

～教育研究家：内藤宏氏の論～
長い教職経験と多様な職業体験

を有する人の論述です。

○子どもに聞かれて、知っていることを得意になって教えるのは「飼育」である。知らない振りして自主性を育てるのが「教育」。

○坂道を登る荷車に例えると、子どもを乗せて後ろも見ないで引いていくのが「飼育」、親が荷車の後ろについて坂道を押し上げていくのが「教育」。つまり、「どうすることが子どものためになるか」を常に考えながら一緒に歩く過程が教育。

○親が子どもに残すのは、お金や物質的財産ではなくて、自分の頭で考え、自分の手で働き、自分の足で歩くことのできる強い心、すなわち精神的財産。

人間としてたくましく生き抜く力を残すこと・・・。

ジャンプアップ研修から

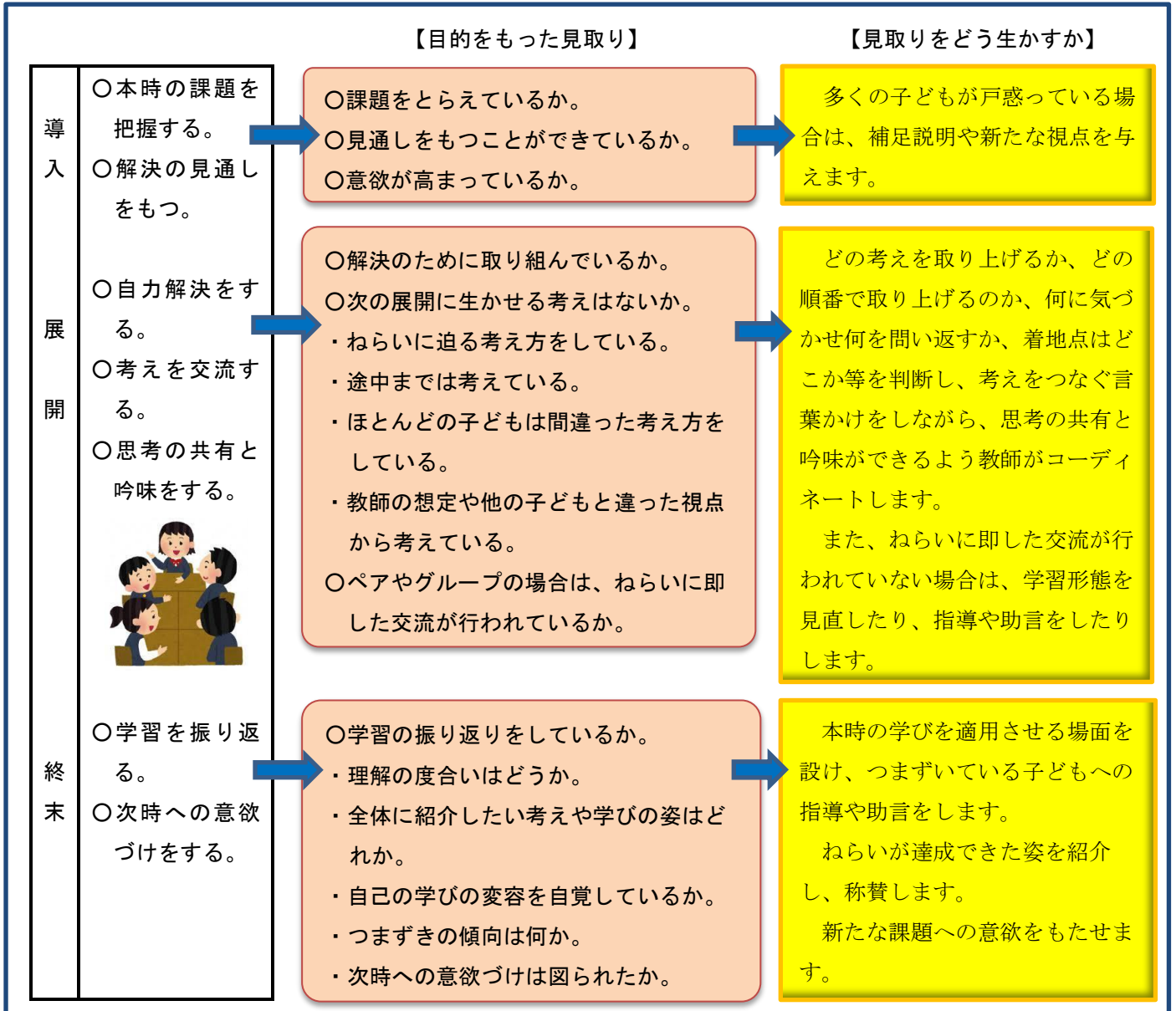
小学校1年生の算数の授業で、背面の掲示物（資料）を活用する場面がありました。前時で活用した引き算の方法を明示した資料をもとに、本時の学習の確認に効果的に活用されていました。

一単位時間の見取りとその生かし方

子どもの見取りを中心とした授業づくりのための研修会が各学校で進められています。見取りとその生かし方についての資料です。ぜひ、参考にしてください。

(30年度版 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて 福島県教育庁県北教育事務所より)

※さまざまな場面で、一人一人の思考を見取り、把握し、それを次の展開にどう生かすかを考え、授業を組み立てることが大切です。



職員室の様子から！

職員室の様子は、次のどちらにあてはまるでしょうか？
教職員がパソコンに向かい黙々と仕事をする光景が常態化しているのか、それとも「おしゃべり」が優先して常態化しているのか。時代が進むにつれて、学校においてもパソコンに向き合う時間が多くなり、前者の方が多くなっているものと推測されます。しかし、後者のよくしゃべり、笑い声が絶えない職員室では、子どものことや職務上のことはもちろん、時にはプライベートなことまで話題になることがあります。

教頭職の時に、「教頭はパソコンに向かってばかりいないで、授業を終えて職員室に戻ってくる先生を、顔を上げて迎えなさい。」と、コミュニケーションの大切さをよく言われました。「笑い声のでない授業は？」と言われますが、職員室にも後者のような光景が大切なのかもしれません。

皆さんの学校はいかがでしょう？

